

共に輝くまちづくりを目指して

今回のテーマは社会参画。第一線で積極にご活躍されている委員お二人から現状や課題を提起していただき、どうしたら社会参画の推進ができるのか、また、これからのあり方についてグループ討議を行いました。

団体活動離れの兆し・・・今大きな転換期を迎える

昭和30年、戦後の混乱した社会の中で、明るく豊かな家庭、住みよい地域社会を築くため連合婦人会を組織化。以来、女性の自立と社会参加を促す指導者の養成を主としながら、環境問題、食の問題、ボランティア活動、交通安全の推進並びに未来を築く青少年の健全育成、国際交流などの相互理解の促進などにも取り組みました。各種研修大会に参加し幅広くエンパワーメントしながら実践活動をし、2年前には設立50周年の大きな節目を迎えました。ところが、単位町内会の合併など社会環境が大きく変化する中で、協働のまちづくりの担い手が今まで以上に必要とされる時に、社会構造の変化なのか団体活動離れの兆しが色濃く見えはじめました。市街地区27単位町内会中、現在は17町内会へと徐々に減少し、今大きな転換期を迎えています。単位町内会の減少は、敬老会やみのりまつりの餅作りなど各種行事にも大きな影響があります。何のために活動するのかという問題意識を明確にしつつ、この半世紀の歴史を更なるものに深めていきたいと思っています。



女性団体連絡協議会会長
北村敦子さん

Q. 単位町内会が減少した原因は何だとお考えですか？ 社会参画の目的が達成されたから？

A. 大きな原因の一つに高齢化が考えられます。高齢化によって会長など役員の選出ができない現状があります。30年前に比べると多くの女性が仕事を持ち社会に出ています。一日の大半を職場で過ごすため時間的な問題もあるのではないのでしょうか。

わからないているのはおかしい・・・女性も社会に出て行くために勉強を

私達の頃は男性も女性も共に働き経営を成していくのが農業の姿でした。女性は家にいて仕事をするのが一般的で、全道的に見て女性の農業委員、農協理事はほんの限られた方。農業は雇用者がいなければ夫と二人で仕事をするため人との触れ合いが少なく、考え方も自分流になりがちだと思います。女性部（当時は婦人部）は、4年前に50周年を迎えました。初代の部長さんは、上浦幌から車で30分かかるところを自転車まで来られ活動をされていたそうです。そんな方達が基礎を築いてくれた女性部なのですが、現在は5支部（39名）になりました。なぜ減ったのか？一番の原因は、団体に属さなくても個人でやれるようになったからなのかなと思います。ここ数年は、農協理事さんに講師をお願いし農業情勢などについて勉強会を開催しています。私個人の話をする、夫婦二人で農業をしています。地域の共同作業では男性の中に女性の私が一人。大目に見てもらっているのですが、できる範囲での仕事をして一人前に認めてもらっています。女性にはもっと男性の話を聞く機会が必要です。「わからないのに」「うるさいな」と嫌な顔をされることもあります。聞くばかりでなくがんばって声を出すことが社会参画なのではないかと思っています。男性の子育ては進んでいるのに逆に女性の経営参画は少ない。品目横断的経営安定策が始まるなど農業は大きな転換期を迎えています。これからも潰されない農業をしなければならないと思っています。



JA浦幌農協女性部長
神谷則子さん

Q. 農業情勢など勉強会をするようになったとのことですが、勉強しなくてはどう思ったのはなぜですか？

A. WTO、FTAなど騒がれていますが、世界の農業の中の一人だということが否応なしに責められている現状の中で、何もわからないているのはおかしいと思い、学習の場を設けました。

男女間、世代間のコミュニケーションが不足している・・・

男女がお互いに受け入れられる体制が必要である

男女それぞれの役割を認め合い尊重しあう事が大切である

昔は、親、夫の目があつた外での活動に制限があつた



時間的、精神的にも余裕がないのではないかと

高齢化する前に次代を引き継ぐ若手の育成が必要

懇話会の様子は町HPに掲載していますのでご覧ください。